

神戸学院大学 中期行動計画 実行計画(第4層) 2016年度達成度評価表 分野:研究

		評価	理由
中期計画	1 研究環境の整備と充実		
実行計画	(1) 研究の質と資金の効率配分に意を払いながら、研究設備・施設の充実を図る。	C	学部・研究科においては個々に検討を行っているが、一部を除いて成果はあまり見られない。また、形骸化している計画や全学的に取り組まなければならない計画も多く、大学全体として改善策を検討し、実行に移す必要がある。
	(2) 研究費の適正使用を遵守する体制をより強化する。	B	研究費の適正使用を遵守するための説明会開催やマニュアル作成および周知といった取り組みを行っており、体制は強化されつつある。継続的な取り組みに期待する。
	(3) 研究所設置に向けた制度的検討を行う。	C	研究所設置に向けた準備として、一部の学部・研究科においては、国内外の研究者との交流を独自に行っているものの、コアとなる部署との連携は万全とは言えない。また、大学として研究所設置に向けた制度的検討は一定の進捗が見られるが、最終年度(2017年度)に向けて、速度を上げる必要がある。
	(4) 知的財産の創出の強化を図るとともに、その適切な管理を遂行する。	B	学部・研究科の教員の研究成果の公表が進み、大学全体の公表としては、シーズ集の構成をわかりやすくする等、利便性を高めたことは評価できる。しかしながら、機関リポジトリの構築については、昨年度に比べ進捗が見られるものの、検討が不十分であり、構築にはまだ時間を要することが予想される等、最終年度(2017年度)に向けて、さらに速度を上げて取り組むことが望まれる。
中期計画	2 多様な外部資金の獲得		
実行計画	(1) 科学研究費の申請数および獲得数の増加を目指す。	C	科学研究費の申請数増加のための取り組みとして、例年実施していた「科研費申請説明会」ではなく、研究者と委託業者スタッフとの個別面談によるアドバイス等の支援を提供し、研究者等から高い評価を得たことは評価できるが、申請数の増加はわずかであり、改善が必要である。
	(2) 受託研究・共同研究・研究奨学寄附金の獲得、増加を目指す。	C	迅速に学部・研究科へ研究助成情報が提供されていることは評価できるが、成果には結び付いていない。また、一部の学部・研究科においては、2013年度より計画に進捗が見られないため、コアとなる部署が中心となり、改善する必要がある。
	(3) 外部資金獲得に向けた支援体制を強化する。	B	学部・研究科において、外部資金に関する情報提供が適切に行われている点は評価できる。また、専門業者による申請書の作成等の支援も行っており、支援体制は概ね整えられている。最終年度(2017年度)に向けて、支援体制のより一層の強化に期待する。
中期計画	3 学内・学外との研究連携促進		
実行計画	(1) 学部・研究科間の研究連携推進を図る。	B	学部・研究科それぞれの研究は進んでいるが、学部等を超えての研究連携はあまり進んでいない。しかしながら、2017年度私立大学研究ブランディング事業へ申請を行うことが学内で合意されたことは評価できる。次年度以降、複数学部にまたがる研究プロジェクトから申請があることを期待する。
	(2) 神戸医療産業都市構想等へ積極的に参画する。	B	成果は十分ではないものの、積極的に継続した取り組みを行っており、評価できる。今後も神戸医療産業都市構想等に参画する機会を設け、研究連携の強化に期待する。
	(3) 企業、経営者団体、自治体等との産学官連携事業をより促進するとともに、共同研究の推進を図る。	B	それぞれの学部・研究科において、継続した取り組みが行われており、評価できる。ただし、一部の部署等においては、昨年度から進展が見られない。今後、さらなる推進を図るために、企業、経営者団体、自治体等との情報交換を絶やすことなく、社会のニーズに沿った新たな共同研究の機会が設けられることを期待する。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る